

音楽Ⅰ テスト	日本の伝統音楽		教科書 『MOUSAⅠ』		P.68 舞台芸術 P.84 日本の伝統音楽 P.94 箏	
	氏名		得点	／50 点	評価	

① 「雅楽 舞楽《陵王》」について、正しい文章になるように、（ ）に当てはまる言葉を下から選んで記号を書き入れ

なさい。(各2点=12点)

- ア 奈良 イ 平安 ウ 中国 エ 東南アジア オ 朝鮮
カ 走舞 キ 歩舞 ク 鳴物 ケ 打物 コ 本曲 サ 当曲

「舞楽」はアジア各地から伝来した舞や音楽で、（ ）時代に国風化が進められ、様式が整えられた。「左舞」と「右舞」に大別され、左舞では（ ）などから伝来した「唐楽」を、右舞では（ ）半島などから伝来した「高麗楽」を演奏する。
左舞の《陵王》は、動きのある「（ ）」の代表的な演目で、武将が馬上で指揮を執る姿が、舞と音楽によって表現される。舞楽の楽器奏者は「管方」と呼ばれ、吹物と（ ）を演奏する。いくつかの曲から編成されるが、演目の中心となる曲を〈（ ）〉と呼ぶ。

② 「能楽」について、正しい文章になるように（ ）の中から1つ選び、○で囲みなさい。(各2点=10点)

能は、室町時代初期に、観阿弥、（世阿弥 木阿弥）親子によって基本的な形に整えられ、江戸時代には（幕府 宮中）の式楽としても用いられた。能では、主役の「シテ」と、その（補助 相手）役の「ワキ」などが謡や演技、舞で表現する。シテはほとんどの演目で（タスキ 面）をかけて演じる。地謡と、笛・（小鼓 中鼓）・大鼓・太鼓による囃子を伴う。

③ 「能《道成寺》」の説明として正しいものを次から2つ選びなさい。

(各2点=4点)

- ア 「雑能」と呼ばれる種類の演目である。
イ 「乱拍子」は見せ場であり、シテと太鼓の一騎打ちと称されることもある。
ウ 「鐘入」の前の「急ノ舞」は、緩やかなテンポによる舞である。
エ シテである「白拍子」は、後半では「鬼女」となる。

--	--

④ 「箏」について、正しい文章になるように（ ）の中から1つ選び、○で囲みなさい。(各2点=8点)

箏は、通常（桐 檜 竹）の木で作った胴に（10 12 13）本の糸が張られており、（座 柱 地 台）と呼ばれる駒を動かして音の高さを調整する。楽器の各部の名称は、箏全体を（寅 竜 蛇）の姿になぞらえて付けられている。

⑤ 「箏曲《みだれ（乱輪舌）》」について、正しいものを次から2つ選になさい。

(各2点=4点)

- ア 《みだれ》は、いくつかの部分（段）によって構成される「段物」である。
イ 《みだれ》は、各段の拍数が一定で、テンポも規則的である。
ウ 生田流では12段に分かれていることから《十段の調べ》とも呼ばれる。
エ 本来は独奏曲だが、三味線や尺八を加えた「三曲」としても演奏される。

--	--

⑥ 「尺八曲 琴古流古典本曲《鹿の遠音》」「尺八について」について、それぞれ正しい文になるように（ ）の中から

1つ選び、○で囲みなさい。(各2点=12点)

- ア 尺八は、奈良時代頃に（中国 西アジア）や朝鮮半島から伝来したといわれる。
イ 尺八は（桐 葦 竹）製で、標準の長さが一尺八寸である。
ウ 尺八の代表的な奏法には、（メリ メラ メル）、カリ、ユリ、ムラ息がある。
エ 尺八のみで演奏するためにつくられた曲のことを「〈当曲 本曲〉」という。
オ 《鹿の遠音》は、（1 2 3）本の尺八で演奏される。
カ 《鹿の遠音》の原曲は《呼返鹿遠音》と呼ばれ、初世（黒沢琴古 八橋検校）が収集したとされる。